

放課後等ディサービス 夢門塾 自己評価表

2021年1月12日

事業所名：夢門塾 ゆうゆう高木2組

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	① 利用定員と指導訓練室のスペースは適切である	3	3		学習室がどうしても密になりがち。運動室もうまく使う工夫がいる。
	② 職員の配置は適切である	3	3		来所児童数に応じた職員数を当てている。
	③ 衛生面の管理が行き届いている	2	4		来所時の手洗い、うがい、消毒を徹底している。 手の触れる部分は入念に次亜塩素酸消毒を毎日実行している。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定を振り返り)に、広く職員が参画している	2	4		職員によって温度差はあるが、おおむね取り組めている。
	⑤ 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者様の意見を把握し、業務改善につなげている	6			保護者様アンケート結果を振り返り、支援に役立てていくよう努力している。
	⑥ 自己評価の結果を公開している	3		3	ホームページに掲載している。
	⑦ 職員の資質向上のため、会議・研修の機会を確保している	6			毎朝のミーティング、定期的なカンファ、研修で概ね確保できている。
適切な支援の提供	⑧ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者様のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を立てている	3	3		モニタリングで保護者様からのご要望を聞き取り、さらに職員間でカンファを行い児童それぞれに合わせた支援計画に反映している。
	⑨ 活動の計画をチームで行っている	5	1		曜日の実態に沿ってできる活動を計画している。
	⑩ 活動の計画が固定化しないよう工夫している	5	1		職員一人一人が提案しあい、新しいものを取り入れていくよう努力している。
	⑪ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め、細やかに設定し、支援している	1	5		コロナ禍ではあるが、できることの範囲で創意工夫が必要。
	⑫ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、活動を計画している	4	2		児童全員が達成感や自己肯定感を味わえる活動の工夫が引き続き必要。
	⑬ 支援開始前に、職員間で打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	2	1	利用児童に着目しながら実態に合った活動を考えて共有している。
	⑭ 日々の支援に関して正しく記録をとる事を徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1		時系列ではなく、児童の様子がつぶさに分かるように記録するスキルを職員一人一人が意識して身につける必要あり。
	⑮ 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	6			タイムリーに児童のニーズに合わせた支援目標を立てるよう心掛けている。
	⑯ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	4	2		全てを網羅してできていないので、再度確認必要。

関係機関、保護者様との連携	⑯ 学校との情報共有(年間計画・行事予定等予定の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行えている	4	2		月末に必ず下校時刻表をコピーさせていただき、送迎表を作っている。イレギュラーな対応も迅速にできるようこまめに連絡を取っているが、不備もあるので気を付けたい。
	⑰ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所または学校等との情報共有と相互理解に努めている	3	3		こまめな連絡はあまりできていないので、これから電話等で連携していくたい。
	⑲ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供している	3	3		全てはできていない。
	⑳ 児童発達支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	4		ケース会議などで連携を取っている。市町の研修に参加する。
	㉑ 日常的に子どもの状況を保護者様と連携し、発達状況や課題について共通理解を受けている	5	1		送迎時や電話などで、変わった様子があればご連絡をし、内容を職員間で共有している。
保護者様への説明責任等	㉒ 運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	2		契約時に保護者様に説明を管理者よりしている。
	㉓ 保護者様からの子育ての悩み等に対する相談に応じ、必要な助言を行っている	4	2		モニタリングなどの機会で相談されることが多いが、アドバイスの引き出しがまだ少ないと感じているので、経験を積んでより的確にお答えできるようにしていきたい。
	㉔ 保護者会等を開催し、保護者同士の連携を支援している	—	—	—	コロナ対策のため本年度は開催が困難であった
	㉕ 子どもや保護者様からの苦情について、対応体制を整備、周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			職員で共有し、二度と同じことが繰り返されないよう対応に当たっている。迅速・丁寧な対応を引き続き心がけていく。
	㉖ 定期的に会報等発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信している	6			毎月の広報やブログを通して発信している。
	㉗ 個人情報保護に十分注意している	6			書類の取り扱いなど十分注意している。
	㉘ 障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			掲示物などを工夫し、具体的に児童が理解できるよう工夫している。
	㉙ 地域の行事に参加したり、事業所に地域住民を招待する等し、地域に開かれた事業運営を行っている	1	4	1	コロナ禍のため、集まって活動をすることが難しい。
	㉚ 緊急対応、防災、感染症マニュアルを策定し、周知している	5	1		回覧をしたり、各自に配布したりして共通認識を持つようにしている。
非常時などの対応	㉛ 非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を行っている	6			定期的に様々な災害に応じた訓練を行っている。
	㉜ 虐待防止のため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	1		年1回の虐待防止の研修は全員受けている。
	㉝ いかなる場合も身体拘束を行うか否かについて、組織的に決定し、子どもや保護者様に事前に十分説明し、了承を得た上で支援計画に記載している	4	2		契約の時に保護者様にご説明している。
	㉞ 保護者様に記入いただいた与薬表をもとに、子どもへの投与を行い、チェックを行っている	6			ダブルチェックができる与薬表で職員同士声を掛けあいながらできている。
	㉟ ヒヤリハットを綴り、事業所内で共有している	6			報告をこまめにするように日ごろから気を付けている。状況に応じて報告書にまとめ、職員間で共有している。